

特集 | 令和8年5月29日から

防災気象情報 が新しくなりました



国土交通省水管理・国土保全局と気象庁は、令和8年5月29日から新たな防災気象情報の運用を開始しました。これまで「河川氾濫」「大雨」「土砂災害」「高潮」に関する情報などは、警戒レベルとの対応が複雑でわかりにくい面がありましたが、今回の改善により避難情報の5段階の警戒レベルに対応し、避難の判断がしやすくなります。

「警戒レベル3」や「レベル4相当」の情報が発表された場合は、市が発令する避難情報にも十分留意し、早めの行動を心がけましょう。また、市から避難指示などが発令されていない場合でも、状況に応じて自ら避難の判断を行うことが大切です。

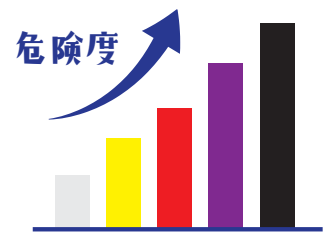
避難にあたっては、必ずしも指定された避難所へ向かうことにこだわる必要はありません。川や崖から離れた場所や、近くの頑丈な建物の上層階へ移動するなど、その時点で最も適切な行動をとりましょう。

変わったポイントは4つ!

1 警報・注意報の情報名に「レベル」が付きまして

避難行動と直結するレベルがすぐわかり、避難判断の目安が明確になりました。

旧「大雨警報」 → 新「レベル3大雨警報」



2 河川氾濫・洪水の危険度の伝え方が変わりました(特別警報の新設など)

河川の氾濫に関し、「洪水警報」「洪水注意報」が廃止され、「レベル5氾濫特別警報」が新設されました。今後は河川の区分に応じ伝え方が変わります。

旧「洪水警報」

→ 新「レベル3氾濫警報(洪水予報河川)」

※国土交通省が指定した重大な影響を生ずる大きな河川に限って発表(利根川や那珂川など)

→ 新「レベル3大雨警報(洪水予報河川以外の河川)」

※市内では涸沼川が該当

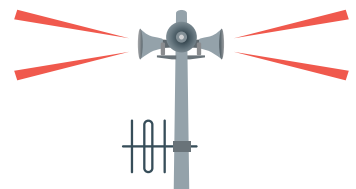


3 「警戒レベル4相当」の情報は「危険警報」として発表されます

危険な場所から避難が必要な状況である「レベル4相当」の情報が「危険警報」として発表されます。

旧「土砂災害警戒情報」

→ 新「レベル4土砂災害危険警報」



4 線状降水帯の発生などは「気象防災速報」として発表します

極端な現象は新たに「気象防災速報」として発表します。

旧「顕著な大雨に関する気象情報」 → 新「気象防災速報(線状降水帯発生)」

旧「記録的短時間大雨情報」 → 新「気象防災速報(記録的短時間大雨)」



新たな **防災気象情報** と **取るべき行動**

新しい防災気象情報は、危険度を「レベル」で示すことで、そのとき取るべき行動がわかる仕組みになりました。それぞれの情報の特徴を理解し、早めの行動につなげましょう。

警戒 レベル					住民がとるべき 行動
	河川氾濫 1級河川などの大河川の氾濫	大雨 低地の浸水や大河川以外の氾濫	土砂災害 急傾斜地のがけ崩れや土石流	高潮 海水面上昇や波の打上げによる浸水	
レベル 5	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	命の危険 直ちに安全確保！
< 警戒レベル4までに危険な場所から かならず避難！ >					
レベル 4	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	危険な場所から 全員避難
レベル 3	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	避難に時間を要する人は 早めに避難、 避難の準備など
レベル 2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	避難行動を確認 (避難場所や避難ルート、 避難のタイミングなど)
レベル 1	早期注意情報				災害への心構えを高める

状況を確認する際は、次の情報をご活用ください！

リアルタイムで危険度を確認できます！

⚠ 危険度は気象庁の「キキクル(危険度分布)」で確認できます

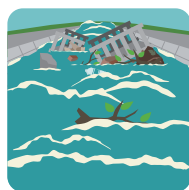


キキクル(危険度分布)は、地図上で大雨による浸水、河川の氾濫、土砂災害の危険度を5段階に色分けして示す情報です。自分のいる場所の危険度を一目で確認できます。



▲キキクルはこちら
(気象庁 HP)

⚠ 河川の水位などは県のシステムで確認できます



茨城県が提供する「茨城県河川情報管理システム」で、河川の水位や雨量、河川カメラ画像をリアルタイムで確認できます。



▲茨城県河川情報管理システムはこちら
(茨城県 HP)

いざというときへの

備えと避難のポイント

さまざまな
自然災害に
役立つ!



災害はいつ起きるかわかりません。「もしも」や「まさか」に備えて、日ごろから準備をしておくことが大切です。

自分や家族の命を守るために、今できることを確認しておきましょう。

1 自宅周辺の危険場所を確認しましょう

自宅や職場、学校などの周辺に、どのような危険があるのかを把握しておきましょう。

確認するポイント

- ✓ 近くに河川はないか
- ✓ がけや急な斜面はないか
- ✓ 低い土地や浸水しやすい場所はないか



2 ハザードマップの確認をしましょう

自宅・職場の浸水や土砂災害の危険性を把握しておきましょう。

ハザードマップは、笠間市役所本所 危機管理課または、各支所 地域課の窓口で配布しています。

ハザードマップでわかること

- 浸水の深さや範囲
- 土砂災害の危険箇所
- 避難に役立つ情報など



笠間市
ハザードマップは
こちら

3 避難場所の確認をしましょう

学校や公民館など、避難場所として指定されている場所への避難経路を確認しておきましょう。実際に歩いてみると、安全なルートが確認できます。

確認すること

- ✓ 最寄りの避難場所
- ✓ 避難経路(複数ルート)
- ✓ 避難場所までの移動手段
- ✓ 避難にかかる時間



4 非常用持ち出し品の確認をしましょう

すぐに持ち出せるように、リュックサックなどにまとめておきましょう。定期的に中身を確認し、必要に応じて入れ替えましょう。



飲料水(1人1日3Lが目安)



食料品(最低3日分、可能であれば1週間分)



生活用品・断水対策
(簡易トイレ、給水を受ける容器、消毒液など)



停電対策
(蓄電池、携帯バッテリー、懐中電灯、カセットコンロなど)



自分や大切な人に必要なもの
(常備薬、育児用品、ペット用品など)

5 家族での話し合い

連絡方法や集合場所を決めておくと、離れていても落ち着いて行動できます。日ごろから家族で話し合っておきましょう。

話し合う内容の例

- 災害時の連絡方法
(電話が繋がらないときの連絡手段)
- 避難する場所、集合場所
- 避難のタイミングや判断基準
- 家族の役割分担
(火の元、電気の確認、
子ども・高齢者へのサポートなど)



ローリングストックで備えましょう

食料や日用品を少し多めに備え使った分だけ買い足すことで、常に新しいものを備蓄できます。



- 1 備える 少し多めに買い置きする
- 2 消費する 日常生活で使う
- 3 買い足す 使った分だけ買い足す



知っておきたい情報と

さまざまな選択肢



自分に合った避難先を考えましょう

避難は一律ではなく、状況に応じた判断が大切です。特に水害は、場所によって危険度が大きく異なります。避難とは「難」を「避けること」。今いる場所が安全であればとどまり、河川の近くであれば早めに避難するなど、それぞれの状況に応じて自ら判断し、適切な行動を取りましょう。

在宅避難

自宅やその周辺が安全で、災害の危険性がない場合
※最低3日分を目安に日ごろから備蓄を心がけてください。



親戚・知人宅に避難

災害時の避難について
事前にお願いをしておきましょう



避難所へ避難

市の指定避難所や地域の集会所など避難所までの経路に危険がないか事前に確認しましょう
※笠間市で指定する避難所は、天候や地域の状況を加味して開設を判断します。



車中泊避難

災害の影響がない安全なスペース、避難所の駐車スペースなど
※エコノミークラス症候群などに注意が必要です



目の不自由な方や外国人の方向け「耳で聴くハザードマップ」

県では、視覚に障がいのある方や、日本語の読めない外国の方などもスマートフォンやタブレットを使って、現在地の災害リスクを音声や多言語で確認することができる「耳で聴くハザードマップ」を導入しています。日本語のほか英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、ベトナム語に対応しており、音声で聴けるため、文字が読みにくい高齢の方などにもお使いいただけます。

笠間市に関するさまざまな情報を入手しましょう

■市ホームページ

笠間市の情報を発信しています。防災・災害情報を確認できます。



▲市ホームページはこちら

■かさめ〜る

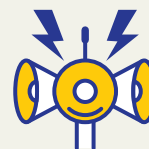
行政・災害・防災無線などの希望する情報をメールで受け取れます。ぜひこの機会に登録してさまざまな情報を受け取りましょう。



▲かさめ〜る登録はこちら

■防災行政無線

防災無線で流れた情報をもう一度聞くことができます。大雨などで防災無線の内容が聞き取りにくい場合にご利用ください。



防災無線フリーダイヤル
0120-996-131